

プラスチックの最凶

1. プラスチックの現状

プラスチックが使われはじめたのは、
 第2次世界大戦後からで、たった100年
 ほどしかたっていない。
 現在年間に流出している量は、
 500万トンから1300万トンにも及ぶ。
 人々の便利な暮らしの残骸が海を
 ごみ箱にし「魚鳥海洋生物、人間」を
 蝕んでいっている。
 700種類近い海洋生物に影響を与える。

2. 影響

① パシグ川
 フィリピンの首都マニラの都心を
 流れる川。廃プラスチックを
 運ぶ量は年間最大6万5300トン、
 1990年には生物が生育できない
 「死んだ川」と宣告された。

3. やるべき5箇条

- ストロー使わない
- ペットボトル使わない
- プラスチック容器使わない
- リサイクル
- ホイ捨てしない。



生物のプラスチックによるけがが例



ビニール袋が
 取れなくなった鳥

鼻にストローが
 刺さった
 海亀

ペットボトルのフタ
 を箱にする
 ヤドカリ

生分解プラスチックの
 真実!!

- 分解できない環境
 がある。(酸素必要)
- 再生プラスチックに
 しにくい。(質が下がる)